

秋の叙勲

瑞宝単光章

旭日双光章



勝山君雄さん
(豊間根・73歳)

建築技術を伝えて50年

豊間根の勝山君雄さん(73)が、建築の技能推進に貢献したことで瑞宝単光章を受章しました。

昭和38年に指導員免許を取ってから50年、宮古職業訓練協会が運営する宮古高等職業訓練校で建築大工の技術を訓練生に伝えてきました。平成20年から同協会会長に就任したほか、県職業能力開発協会副会長にことし5月に就任。現在も週に1度は教壇に立ち、技術が若い世代へ受け継がれるように熱心な指導を行っています。

勝山さんは豊間根中を卒業後、父貞介さんの勧めで大工になりました。東京などで技術を磨き、昭和43年に町内で設計事務所を立ち上げました。その後は、仕事の合間を縫って指導する日々です。

震災後、復興事業などで多くの課題がある中、技術者の育成が重要と話す勝山さん。「技術を習得するには時間が必要です。何度も何度も同じことを繰り返します。その積み重ねを経て、技術を身につけた訓練生が競技会などで入賞すると自分のことのようにうれしいです」と指導員人生の喜びを話します。



佐々木良一郎さん
(織笠・77歳)

林業発展を目指し尽力

織笠の佐々木良一郎さん(77)が、旭日双光章を受章

しました。長年、林業の活性化に向けて貢献してきたことに贈られたものです。

昭和28年に高校を卒業後、農林業を営み日本建築に必要不可欠な木材を育てて町の林業発展に努めてきたほか、50年から宮古地方森林組合の監事や理事、代表理事組合長を歴任。平成20年には県森林組合連合会の代表理事会長に就任し、県の林業界をけん引してきました。

「今は、外国産の木材が多く

輸入されているのが現状。後継者不足など、今の苦しい状況を打破することが、わたしの務めだと思っています」と、日々変わる情勢に注視し、さらなる発展に力を注いでいます。現在でも時間があれば、妻フサコさんと一緒に山へ入り、刈りはらいなど、精力的に作業を行う日々です。

佐々木さんは「木が育つには60年も70年かかります。親が育てた木を子が商品として伐採する。世代をまたぎ、つないでいく林業をこれからも支え続けていきます」と意欲を燃やしていました。

佐藤副町長 岩船教育長が退任

10月29日に岩船敏行教育長が任期満了を迎え、10月30日には佐藤勝一副町長が任期満了を迎えて退任されました。平成20年から4年間にわたって町の行政に力を尽くされたお二人のご労苦に感謝を申し上げ、今後のご健勝を祈念いたします。



前山田町副町長
佐藤 勝一

山田町の復興は、これからが本番。まさにここ2～3年が最も大事な年となります。ひとりの力には限界があります。すべての町民の皆様が「心をひとつにあわせ」、新生やまだづくりに、邁進していくことを祈念しています。

退任のあいさつ

10月30日の任期満了をもちまして、副町長の職を退任しました。平成20年10月の就任以来、町民の皆様方には数々のご指導をいただきました。

特にも、昨年の東日本大震災大津波への緊急対応・復旧・復興に際しては、心温まる物心両面にわたるご支援を賜りました。あらためて心から厚くお礼申し上げます。



前山田町教育長
岩船 敏行

退任のあいさつ

平成20年10月就任以来、「早寝・早起き・朝ごはん」、「一を大切に」など、子どもたちや先生方がんばってもらえたのも、老若男女が相集いスポーツや文化活動に一生懸命に取り組めたのも、町のみなさんの温かいご支援があったからこそです。心からありがとうございます。

震災復興の道のりは、まだまだ遠く厳しいものがありますが、「山田祭」に寄せる熱い思いがある限り、町は必ず復興します。これからいろいろな機会にお世話になると思います。皆様のご多幸をお祈りいたします。

副町長に甲斐谷氏を選任



山田町副町長
甲斐谷 義昭

11月9日に開かれた第4回町議会臨時会で、副町長に甲斐谷義昭氏（58）を選任することが同意されました。任期は、11月10日から4年間で。

【略歴】県立釜石工業高校卒。昭和48年山田町職員。教育委員会事務局教育次長を経て、平成24年総務課長。船越6-32。58歳。境田町出身。

平成24年度秋の叙勲で、佐々木良一郎さんが旭日双光章を受賞し、勝山君雄さんと平山林盛さんが瑞宝単光章を受章しました。3人の長年にわたる功績に、光が当てられました。

瑞宝単光章



平 山 林 盛さん
(石岐・76歳)

山田の地域防災に献身

石岐の平山林盛さん（76）が、瑞宝単光章を受章しました。

した。長年にわたり消防団員として地域の安全を守ってきた功績に贈られました。

平山さんは「このような榮譽をいただき、とても驚いています。うれしいです」と笑顔で話します。昭和36年に消防団第12分団に入団し、54年に班長、56年に副分団長、58年に分団長を務め、平成9年に退団するまでの36年間、町の消防活動に尽力しました。

昭和36年の三陸フェーン火災や51年の国有林火災に出動。現在のような消火器具がない中、冷静に火勢を分析して鉋やスコップなどで防火線を設定するなどの消火活動を行いました。また、昭和61年の豪雨では、豊間根川の下流地域に住む住民の避難誘導や氾濫防止に努め、被害を出さなかったなど、献身的な活動を行ってきました。

平山さんは「防災に対する意識は今でも強く持っています。地域ぐるみでの火災予防が安全対策の第一歩として、わたしのできる限りのことをしていきたいです」と防災に対する強い気持ちを話しました。